

アンナプルナ(I峰 8091m)、世界第10位の高峰はサンスクリット語で「豊穡の女神」と呼ばれ、その麓は穀物が豊富に取れる肥沃の地です。1950年 モーリス・エリゾーグ隊によって世界で初めて征服されたこの8000m峰は、北壁を雪崩、南壁は大岩壁(下の写真)が行く手を阻み、登攀難易度が高いとされる世界第2位の高峰K2や魔の山と言われたナンガパルパットより登頂危険率が高いとさえ言われます。また、昨年10月中旬、下の写真の裏側に位置するマナンからトロンパス(5400m)にかけサイクロン崩れの猛吹雪が襲い、大雪や雪崩からトレッカー、ポーター43名が犠牲になるネパールトレッキング史上最悪の遭難事故が起きました。



(アンナプルナ1峰 11/20日)

○マチャプチャレからアンナプルナベースキャンプへ

朝焼けのアンナプルナ連山を楽しんでから朝食を済ませゆつくり出発、ここからアンナプルナベースキャンプ(ABC)までノンビリ雲上歩行で2.5時間ほど。西にアンナプルナI峰(8091m)、南にアンナプルナサウス(7219m)、東にマチャプチャレ(6997m)、北にテントピークからアンナプルナIII(7555m)。四方の神々しい山々に囲まれたロッジ前の陽だまり食堂は世界一の食堂です。参加12名全員高山病に全くかからず、いたって元気で筆者が驚くほど食欲旺盛でした。



(アンナプルナベースキャンプ 11/19日)



○下山と温泉

一昨日から続く雲一つない素晴らしい天気と聖域(サンクチュアリー)の景色探訪は大満足の内に終了、ABCでゆっくりお昼を取ってから予定を1日早めて下山を開始。向う所はジヌーダングの天然温泉(二日後)で、早めに到着し人混みのない静かな風呂を浴びるためです。この温泉は正にヒマラヤのど真ん中、モディ川の脇に有る鉱泉で湯温は40度程度、疲労と寒さで酷使された体に持って来いの名湯です。



(下山 11/20日)





(ポインセチア 11/23 日)

○ネパール地震

下の写真はダルバール広場に有るネワール朝の仏閣の修復現場で、被災時に何度かテレビで放映された所。詳細は分かりませんが、この地震は何故かカトマンズ市街のネワール朝建築物(世界遺産)にダメージをあたえ、その他の建築物は大きな被害を免れた様にさえ思えます。既に半年たっているせいか繁華街のタメル地区などは以前の喧騒と混雑が入り混じり、雑多でアクティブな活気が戻っていました。とはいえマナスルに近い震源地のゴルカ、その東方の花の谷ランタンは壊滅的な被害を受けている様で、1日も早い復興が望まれます。

※ダルバール広場に併設されたクマリの館は靈気のせいか被災無しの様でした。不思議ですネ！



(ダルバール広場の復元作業 11/13 日)

今年はこのツアーを持って天溪の全ツアーを無事に終了する事が出来ました。この一年間、皆様より多大なご愛顧を賜り、心より感謝申し上げます。

来年は2月26日発「ミルフォードトラックとマウントクック 11日間」でスタートします。2016年も宜しく願い申し上げます。

天溪 赤沼